

年頭所感

あけまして
おめでとうございます



垣見 俊弘 所長

地質調査所長 垣見 俊弘

昭和63年の年頭に当り 読者の皆様からの地質調査所の研究業務に対する日頃のご理解とご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

当所は明治15年創立以来 地質及び地下資源に関する総合的な調査研究機関として 一貫してその業務の遂行に努めて参りました。この間の先輩各位のご苦勞 ご努力に深く敬意を表しますとともに 関係各位の変らぬご支援 ご鞭撻に心からお礼を申し上げます。

申すまでもなく 当所の使命は 地球という自然の高度な認識を基盤とし 資源・エネルギーの探査と評価環境の評価や災害の予測等を行って社会からの要請に応え 併せて地球科学の進歩に寄与することであり、昭和63年におきましても 上記の使命にのっとり 以下の重点分野について積極的に研究を推進いたします。

1) 国土及びその周辺海域の地球科学的実態の解明

日本列島とその周辺海域の地質の解明を通じて 地下資源の評価や国土の利用・保全のために重要な基礎資料となる各種の地質図(5万分の1地質図幅 20万分の1海底地質図 空中磁気図等)を作成する。

2) エネルギー・鉱物資源の探査と評価

ナショナルセキュリティの観点から 地熱資源 金属資源・炭化水素資源 海底鉱物資源の新たな探査・評価手法 及び海域における新調査システム リモートセンシング技術等の開発を図る。

3) 国土の利用 環境保全 自然災害の予知

地震予知 火山噴火予知 地下空間利用 地下水汚染防止 沿岸域開発の環境影響評価 陸域の化学的汚染評価 等の分野において 地球の過去の基本的事象の追求を通じてそれぞれに対する未来予測手法の確立を図る。

4) 国際研究協力・技術協力

多国間の国際共同研究 二国間共同研究 資源開発に関する国際機関への協力 海外技術者研修 発展途上国への研究者派遣 先進国・途上国との人材交流等を通じて 国際社会における我が国の責務を果す。

これらに加えて 将来の研究開発のシーズを育てるため また 研究開発の水準向上を図るための 固体地球科学の全般にわたる基礎的・先導的研究の推進に努めて参ります。また 当所に蓄積されている地球科学に関する膨大な知見を系統的な情報として再編成し 社会に提供していくための研究や体制の整備を図っていく考えです。

著しい経済的な発展をとげたわが国が 今後も発展し かつ その地位にふさわしい国際的な貢献をしていくために 基礎的研究や新しい原理の発見に基づく創造的の科学技術の役割がますます重要視されております。このために 近年国立試験研究機関に対する期待が大きくなってくるとともに 昨年8月の科学技術会議13号答申にみられるように そのあり方に対する見直しも厳しく求められています。こうした中で 私達はいま当所を創造的研究開発の能力と 社会からの要請に適切に応え得る機能を兼ね備えた 活力ある国立試験研究機関としていくために 研究課題やそれを遂行する組織体制等を見直し その一部は今年中に改編することとしております。

地質ニュース読者の皆様の一層のご支援 ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。